

卒業論文

東京ディズニーリゾートが持つ魅力についての研究

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

平成 28 年 1 月提出

## 要 約

本論文の目的は、これまで提示されてきた東京ディズニーリゾートの魅力に関する先行研究を再検証し、「家族の思い出を懐古する場」という新たな魅力について検証することである。

第1章では、開園してから現在に至るまでの30年以上、人々を惹きつけ続けている東京ディズニーリゾートの進化の歴史について、東京ディズニーランドの開園から東京ディズニーシーが開園して東京ディズニーリゾートに至るまでの3段階に分けて整理している。そして、世界から見た東京ディズニーリゾートの位置づけについて述べ、さらに世界におけるディズニーテーマパークと東京ディズニーリゾートの違いについて言及している。

第2章では、これまで様々な分野からなされてきた東京ディズニーリゾートの魅力についての分析を大きく4つに整理している。

第3章では、2点について分析を行なっている。第1に、第2章で整理した先行研究をもとに、これまで主に提示されてきた東京ディズニーリゾートの魅力について再検証を行う。第2に、これまであまり提示されることのなかった「家族の思い出を懐古する場」という分析についての検証を行う。第1の分析については、東京ディズニーリゾートの魅力として、アメリカ社会への憧憬を提示している研究は、異国の世界観を体験できることを魅力と感じているという点では現在の若者にもあてはまるということが言えた。また、非日常性の追求を提示している研究は、今の若者にもあてはまるということが言えた。しかしながら、人々は非日常的なことだけではなく、現実的なことも求めているという結果が得られた。第2の分析については、社会学者である志田基与師が提示している家族の再生論に対して、家族での楽しい思い出を懐古し、その思い出を家族で共有するようなリアリティのある場である、ということを証明した。

第4章では、調査によって得られた結果を整理し、本論文を締めくくっている。

## 目 次

はじめに	1
1 東京ディズニーリゾートの概要と現状	2
1.1 東京ディズニーリゾートの歴史と現状	2
1.1.1 東京ディズニーランドの開業と進化（1972年～2000年）	2
1.1.2 東京ディズニーシーの開業（1988年～2001年）	3
1.1.3 東京ディズニーリゾートへの進化（1994年～現在）	3
1.1.4 東京ディズニーリゾートの現状	4
1.2 世界から見た東京ディズニーリゾートの位置づけ	4
2 なぜ東京ディズニーリゾートが人々を惹きつけてきたのか—先行研究より—	6
2.1 アメリカ文化への憧憬と吸収力	6
2.2 非日常性とレジャー観	9
2.3 家族の再生	12
2.4 補論—アクセスによる違い—	13
3 東京ディズニーリゾートの魅力についての再検証	14
3.1 課題設定	14
3.2 研究方法	14
3.2.1 調査対象	14
3.2.2 調査方法	15
3.3 結果	15
3.3.1 調査対象について	15
3.3.2 アメリカ社会文化への憧憬と非日常性の追求についての結果	18
3.3.3 家族の再生についての結果	35
3.3.4 東京ディズニーリゾートにおける思い出の考察	43
4 結論	50
[文献]	52
[添付資料]	54
謝辞	59